

神のエコノミーを完成する時代の祈りと
キリストの勝利を展覧する賛美のいけにえ

聖書：使徒 2:36. エペソ 1:19-23. 詩 22:3. 119:164. ヘブル 13:15. 歴代下 20:20-22

I. 時代の祈りとは、キリストのからだとしての、すなわち一人の新しい人としての召会の祈りです。それは、昇天の主またからだのかしらであるキリストの権威を行使する祈りであり、神のエコノミーを完成します。わたしたちはこのような祈りの中へと入るために、天のビジョンが必要であり、わたしたちの天然の観念をはるかに超えているものを見る必要があります——エペソ 1:17：

A. わたしたちは、キリストの昇天の意義を見る必要があります：

1. キリストの昇天が示していることは、贖いの働きすべてが完全に完成されているということです——ヘブル 1:3. 10:12。

2. キリストの昇天が示していることは、キリストの主たる身分が確立されているということです——使徒 2:36：

a. 主が獲得し到達したあらゆる事は、「召会に」伝達されつつあります——エペソ 1:19-23. 3:20-21。

b. わたしたちが見る必要のある天的事実とは、キリストが神によって高く上げられ、宇宙の主として立てられ、万物の上にかしらとして召会に与えられているということです。万物は彼の足の下にあります。そして彼が獲得し到達したあらゆる事は、彼のからだである召会に伝達されつつあります——1:22-23。

B. わたしたちは、キリストのからだとしての召会の地位を見る必要があります。召会はキリストのからだであるので、召会の地位は、キリストの地位と全く同じです。からだはかしらと一であるので、からだの地位はかしの地位と全く同じです——I コリント 12:12, 27. エペソ 5:30。

C. わたしたちは、キリストのからだとしての召会の権威を見る必要があります：

1. からだの権威は、からだによって行使されるかしの権威です。

2. わたしたちは召会、キリストのからだとして、キリストの権威を用いる必要があります——マタイ 28:18 後半-19 前半. ルカ 10:19。

D. わたしたちは、キリストのからだとしての召会の祈りを見る必要があります：

1. このような祈りは、個々の信者の祈りではなく、キリストのからだとしての召会の祈りです。物理的には、わたしたちは自分の部屋の中で、ただ一人で祈っているかもしれませんが、霊的には、わたしたちはからだと一です——参照、列王上 8:48。

2. このような祈りの中で、わたしたちは主に、わたしたちのために何かを行なうていただくよう請い求めるものではありません。そうではなく、わたしたちは、主が獲得し到達したものを要求するのです：

a. キリストは、主たる身分と、かしらたる身分を獲得しました。彼は主であり、召会に対して万物の上のかしらです。

b. キリストは、宇宙で最も高い所に到達しました。彼は、死人の中から復活させ

られ、天上で神の右に座しており、宇宙におけるすべての支配、権威、力、主権を超えて、はるかに高くされました——エペソ 1:20-21。

3. わたしたちは、主が昇天において獲得したものにしがって祈るとき、次のように祈ることができます、「主よ、わたしたちは現在の状況に同意しません。わたしたちはあなたのからだとして、あなたの昇天の立場を取り、現在の状況に対するあなたの主権を要求します」。
 4. わたしたちは、主が昇天において到達したものにしがって祈るとき、わたしたちがだれであるか、わたしたちがどこにいるかを、ただ宣言すべきです。わたしたちはからだの中におり、からだはかしらの中におり、かしらは超越しています。わたしたちがかしらのからだであり、またかしらが今や超越しているというビジョンを、わたしたちが持っているなら、わたしたちはこの立場を取って、主が到達したものを要求し、すべての消極的な事物に次のように告げるでしょう、「わたしを煩わせるな。火の池に行け！ わたしは超越している。おまえはわたしに触れることはできない。おまえはわたしの足の下にいる」。
 5. からだは天にいるかしらと一であるので、すでに天で縛られ解かれているものを、からだは縛り解く権威を持っています——マタイ 16:19. 18:18。
 6. 召会は、岩の上に建造されます。この岩は、昇天のキリストです。結果として、ハデス [陰府] の門も、召会に勝つことはできません——16:18。
- E. このような祈りの中へと完全に入り込み、かしらによってからだに与えられた権威を行使することができるようになるために、わたしたちが認識しなければならない二つの事があります：
1. わたしたちは、わたしたちがからだの肢体であることを認識しなければなりません。またわたしたちは、からだの中で生活し、活動し、行動しなければなりません。例えば、パウロは投獄されましたが、キリストのからだから引き離されたり、からだの供給から断ち切られたりしませんでした——ペリピ 1:19。
 2. わたしたちは日常生活の中で、常に古い人を脱ぎ捨て、わたしたちの思いの霊の中で新しくされることによって新しい人を着なければなりません。新しい人は、かしらとからだ、すなわち、キリストと召会から成っています——エペソ 4:22-24. 2:15-16。
- F. 「わたしたちは昇天したキリストのビジョンを見て、権威の祈りをすることを学ぶ必要があります。二千年間、これらの事柄は軽視されてきました。しかし、この最後の時代に、主はそれらを回復しようとしておられることを、わたしたちは信じます。あまりにも多くのとき、わたしたちはキリストの昇天の立場を取らず、彼が獲得し到達したものを要求しません。それにもかかわらず、主はこの失われた立場を回復すると、わたしたちは信じます。これは、良き地の最高峰、最も高い山です。この最後の時代に、主はこの最高峰、この最も高い山を回復します。わたしたちはこの事実を認識し、この立場を取り、かしらが獲得し到達したものを要求しなければなりません。これが、召会の勝利を得る祈りです。これが時代の祈りです」（ウイットネス・リー全集、1963年、第1巻（上）、「キリストの昇天の立場で祈る」、第2編）。

II. 賛美は神の子供たちによってなされる最高の働きです：

- A. 聖徒の霊的な命の最高の表現は、神に対する賛美です。
- B. 神の御座は、宇宙における最も高い場所であり、さらに彼は「イスラエルの賛美の上に座しておられます」——詩 22:3。
- C. 神の御名が、さらには神ご自身でさえ、賛美を通して高く上げられます：
1. ダビデは一日に七度、神を賛美しました。クリスチャン生活は、賛美を通して引き上げられます。賛美することは、あらゆるものを超越して主に触れること——119:164。
 2. ダビデはレビ人を立てて、神の契約の箱の前で楽器を演奏させ、神を覚えさせ、神に感謝させ、神を賛美させました——歴代上 16:4-6。
 3. ソロモンがエホバの宮の建造を完成したとき、祭司たちはエホバの契約の箱を至聖所の中へともたらしめました。祭司たちが聖所から出て来たとき、レビ人は祭壇のそばに立ってラッパを吹き、シンバルと琴と豎琴をもって歌いました。彼らは共に神への賛美を鳴り響かせ、そしてその時、エホバの栄光が彼の家を満たしました——歴代下 5:7, 12-14。
 4. わたしたちは全生涯にわたって、主を賛美すべきです。わたしたちはわたしたちの神に賛美を歌うべきです——詩 146:2. 詩歌 521 番、109 番、英文詩歌 166 番。
 5. わたしたち、神の多くの子たちが召会として集まって、御父を賛美するとき、長子はわたしたちが歌うことの中で賛美の詩歌を御父に歌います——ヘブル 2:12。
- D. 「ですから、彼を通して、絶えず賛美のいけにえ、すなわち、御名を言い表す唇の実を、神にささげようではありませんか」——13:15：
1. 実は、詩篇は旧約における賛美の書です。しかしながら、詩篇には賛美についての篇だけでなく、苦難についての篇もあります。神が彼の民に知ってもらいたいのは、賛美する者たちとは、困難な状況を通らせられ、感情が傷つけられた人たちであるということです。しかし、神はこれらの人たちにおいて賛美を完成されました——8:1-2. 84:4-6. 42:7, 11. 45:1-2。
 2. 賛美の声が最も高らかなものは、非常に多くの場合、困難、逆境、人によって踏みじられた感覚を経過している人たちからやって来ます。このような賛美は最も神を喜ばせ、神によって祝福されます——参照、23:4。
 3. 賛美の性質は、ささげ物、いけにえです。言い換えれば、賛美は痛み、苦難、損失からやって来ます。神は神の子供たちがあらゆることを通して、またあらゆる状況において、神を賛美することを願っています——ヘブル 13:15。
- E. 賛美は、キリストの勝利を展覧し、霊的攻撃に打ち勝つ道です：
1. サタンの究極の目標は、神へのすべての賛美をやめさせることです。祈りは霊的戦いを表徴しますが、賛美は霊的勝利を表徴します。わたしたちが賛美するときはいつでも、サタンは逃げ出します。
 2. 「真夜中ごろ、パウロとシラスは祈りながら、神に賛美の詩歌を歌っていた。囚人たちは彼らに聞き入っていた」——使徒 16:25：
 - a. パウロとシラスは獄の中で賛美のいけにえをささげていました。彼らの体の傷はまだいやされておらず、その痛みは和らげられておらず、その足には足かせ

がかけられており、彼らはローマ帝国の奥の獄の中に閉じ込められていました。

- b. 何か喜ぶことがあったでしょうか？ 何か歌うことがあったでしょうか？ しかし超越する霊を持つ二人がおおり、彼らはあらゆるものにまさっていました。彼らがこのように賛美したとき、獄の戸が開き、鎖が落ち、さらには獄吏と彼の全家族が喜びに満ちた方法で救われました——19-34 節。
 - c. あなたに祈る力がなくなるときはいつでも、またあなたが自分の霊が重く圧迫されていて、傷つき、弱いことを見いだすときはいつでも、彼を賛美しなさい。もしあなたが祈ることができないなら、賛美してみてください。
 - d. あなたが大変な事や問題に遭遇し、途方に暮れて倒れてしまいそうに感じるとき、次の一つの事をただ思い出しなさい。「なぜ賛美しないのでしょうか？」。もしあなたがその時、自分の賛美をささげるなら、神の霊はあなたの中で活動して、すべての戸を開き、すべての鎖を断ち切ります。
3. 「彼らは朝早く起きて、テコアの荒野に出て行った。その出て行くとき、ヨシヤパテは立ち上がって言った、『ユダと、エルサレムの住民よ、わたしに聞きなさい。エホバ・あなたがたの神を信じなさい。そうすれば堅くされる。彼の預言者を信じなさい。そうすれば成功する』。彼は民と相談して、エホバに歌い、聖なる飾り物を着けて感謝をささげる者たちを立てた。彼らは軍勢の前に出て行って、こう言った、『エホバに感謝をささげよ。彼の慈愛は永遠に続く』。彼らが歌って叫び、賛美し始めたとき、エホバは伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアンモン、モアブ、セイル山の子たちを襲わせたので、彼らは討たれた」——歴代下 20:20-22 :
- a. 「彼らが……始めたとき」という言葉にどうか注意してください。この事が意味するのは、あらゆる人がエホバに賛美を歌っていたその時に、エホバが立ち上がって、アンモン人、モアブ人、セイル山の民を討ったということです。賛美ほど主の御手を素早く動かすものではありません。
 - b. あなたは問題に遭遇するときにはいつでも、自分の手段と自分の策略を用いるのをやめて、その代わりに賛美の学課が学ぶように、あわれみを求めて祈るべきです。多くの戦いは、賛美することによって打ち勝つことができます。
 - c. 賛美は永遠に継続します。賛美は永遠にやみません——啓 5:8-14. 7:9-12. 14:1-3. 15:2-4. 19:1-8. 参照、21:6. 22:20。
 - d. 神を賛美する者は、あらゆるものを超越し、賛美することによって継続的に打ち勝ちます。これは原則であり、事実でもあります。
 - e. 賛美することは神に栄光を帰すことです。神はすべての栄光にふさわしいのです。どうか神が満ちあふれる賛美を彼の子供たちから得ますように。